

## 【愛知県の条例公表種】

条例  
公表

愛知県の「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」において規定された、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種のことです。この条例では、条例公表種について、次のような行為を禁止しています。



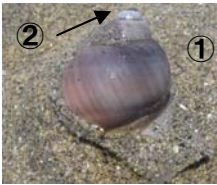


## 条例公表種についての禁止事項

動物をみだりに野外に放すこと  
植物をみだりに野外に植栽したり、  
種をまくこと



## 【条例公表種（動物）】

分類群	種名	種の概要
哺乳類	ハクビシン	17ページを参照
鳥類	コブハクチョウ	18ページを参照
は虫類	アカミミガメ	19ページを参照
	ワニガメ 	近年、県内でも発見されることが多い。捕食による生態系被害のおそれがあるほか、咬む力が強いいため、人体への危害のおそれもある。 区別点 甲羅に3本のするどい隆起がある。大きな頭部にくちばし状に付き出たあごを持つ。
魚類	オヤニラミ 	西日本原産であるが、県内の数河川に定着している。肉食性で、在来生態系に影響を与えるおそれがある。 区別点 エラぶたの後部に、黄色く縁取られた藍色の目玉模様がある。額は背びれの前半まで白い。
	カラドジョウ 	食用や観賞用肉食魚の餌魚として輸入されている。在来のドジョウなどに悪影響を与えるおそれがある。 区別点 ヒゲが長い（ドジョウは短い）。尾びれ付け根の上部に暗色斑がない（ドジョウにはある）。
	ナイルティラピア 	食用として日本に導入されたが、野生化し、名古屋市内の河川で毎年繁殖している。雑食性であり、在来生態系に悪影響を与えるおそれがある。 区別点 体色は概ね黄味がかった暗灰色が多く、体側に不明瞭な横帯が8～10本程度ある。尾びれにも細かい横しまがある。

分類群	種名	種の概要
昆虫類	アカボシゴマダラ 	2010年に名古屋市内の公園で発見された。在来種ゴマダラチョウとの競合が懸念される。関東では急速に分布拡大し問題となっており、県内でも注意を要する。 区別点 ゴマダラチョウに似るが、後翅に赤い斑紋がある。
	クワガタムシ科( 1)	25～26ページを参照
	タイワンタケクマバチ	27ページを参照
	ホソオチョウ 	幼虫はウマノスズクサを食草とし、在来種ジャコウアゲハとの競合が懸念される。県内に分布拡大しており、飼育者による故意の放蝶の疑いもある。 区別点 後翅に長い突起がある。後翅の縁に、赤色と青色の帯状の斑がある。
貝類	サキグロタマツメタ 	中国などから輸入アサリに混入して移入してきたと考えられ、アサリなどの貝類を食害する。現在、県内の個体数は少ないが、生息状況の推移に注意が必要である。 区別点 殻は青灰色で、4cm程度。殻の頂部は黒色。
	スクミリンゴガイ	30ページを参照
	ホンビノスガイ 	東京湾では生息域が拡大し「しろはまぐり」などの名で漁獲・流通されている。県内にも移入、定着し、アサリなどの貝類に影響を与えるおそれがある。 区別点 10cmを越える三角形の大きな殻。殻の内側は白い。
甲殻類	タテジマフジツボ種群 ( 2)  (写真はタテジマフジツボ)	県内の干潟や内湾などに広く分布するフジツボ。在来のフジツボなどに影響を与えるおそれがあるほか、発電施設などへの付着による被害も発生している。 区別点 殻の表面に縦しま。殻の縁に白地に青紫色の縦しま。
	チチュウカイミドリガニ 	ワタリガニの仲間で、伊勢湾・三河湾においては完全に定着している。繁殖力が強く、在来のカニ類などに影響を与えると考えられる。 区別点 甲羅は緑色のまだら模様。額に3つの突起がある。

- ( 1) 県内在来の種または亜種であるツヤハダクワガタ、マダラクワガタ、チビクワガタ、ルリクワガタ、トウカイコルリクワガタ、ミヤマクワガタ、オニクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒメオオクワガタ、アカアシクワガタ、コクワガタ、スジクワガタ、ヒラタクワガタ、オオクワガタ、ネプトクワガタを除く。
- ( 2) タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボの3種をタテジマフジツボ種群として取り扱う。

【条例公表種（植物）】

分類群	種名	種の概要
植 物	アツバキミガヨラン	32ページを参照
	ウチワサボテン属	34ページを参照
	キショウブ	37ページを参照
	スイレン属( 3)	38ページを参照
	タカネマツムシソウ	39ページを参照
	トウネズミモチ	40ページを参照
	ナガバオモダカ 	観賞用の水草として、ジャイアントサギッタリアの名で熱帯魚店などで流通している。在来の水生植物に悪影響を与えるおそれがある。 区別点 葉は線形。 花びらは3枚で白色、直径約1.5cm。
	ノハカタカラクサ	41ページを参照
	ハビコリハコベ 	観賞用の水草として、グロッソスティグマの名で熱帯魚店などで流通している。在来の水生植物に悪影響を与えるおそれがある。 区別点 葉は長さ2～5mm、幅1～2.5mm、先端は円く、光沢のある濃緑色。 花びらは5枚で白色、直径2～3mm。
	ハゴロモモ	42ページを参照
	ヒガタアシ	45ページを参照
	ポンポンアザミ	44ページを参照
	モウソウチク	47ページを参照

( 3) 県内在来種であるヒツジグサを除く。

【法令などによる選定】

(1) 特定外来生物

**特定外来** 「外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）」により指定された外来生物（海外起源の外来種）のことで、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。

(2) 要注意外来生物

**要注意** 生態系に悪影響を及ぼしうる外来生物として環境省が選定したものです。外来生物法に基づく規制対象ではありませんが、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力を求めています。

(3) 日本の侵略的外来種ワースト100

**日本ワースト100** 日本生態学会が、日本の生態系や人間活動に対し特に大きな悪影響を与えている、又はおそれがある外来種として選定した100種のリストです。

(4) 世界の侵略的外来種ワースト100

**世界ワースト100** 国際自然保護連合（IUCN）が、生態系や人間活動に対し特に深刻な影響を与えている、又は侵入の重要な典型事例となる外来種として選定した100種のリストです。

## 【移入種に関連するWebサイト】

内容	URL
外来生物法（環境省）	<a href="http://www.env.go.jp/nature/intro/">http://www.env.go.jp/nature/intro/</a>
条例に基づく移入種の公表について（愛知県）	<a href="http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html">http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html</a>
外来種捕獲手法マニュアル（ヌートリア、アライグマ、ハクビシン）（愛知県）	<a href="http://kankyojoho.pref.aichi.jp/DownLoad/FileInfo.aspx?ID=45">http://kankyojoho.pref.aichi.jp/DownLoad/FileInfo.aspx?ID=45</a>
世界の侵略的外来種ワースト100（国際自然保護連盟）	<a href="http://www.iucn.jp/species/376-worst100.html">http://www.iucn.jp/species/376-worst100.html</a>
侵入生物データベース（国立環境研究所）	<a href="http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/index.html">http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/index.html</a>

（平成24年2月現在）

## 【参考文献】

- 『外来種ハンドブック』 日本生態学会／編 地人書館(2002)
- 『河川における外来種対策の考え方とその事例【改訂版】 - 主な侵略的外来種の影響と対策 - 』  
外来種影響・対策研究会／監修 リバーフロント整備センター(2011)
- 『決定版 日本の外来生物』 自然環境研究センター／編著 平凡社(2008)

## 【写真提供】

本編の作成にあたり使用した写真については、掲載場所に付記した方のほか、以下の方から御提供いただきました。

愛知県弥富野鳥園、天野勲、大川智史、大阪府環境農林水産総合研究所、大竹勝、木村昭一、  
齊藤知己、高橋伸夫、戸田尚希、豊田市矢作川研究所、浜島繁隆、前田剛司、間野隆裕、矢部隆

（五十音順・敬称略）